



MECABLITZ 50 AF-1 digital

取扱説明書

キヤノン用

ニコン用

オリンパス用

ペンタックス用

ソニー用

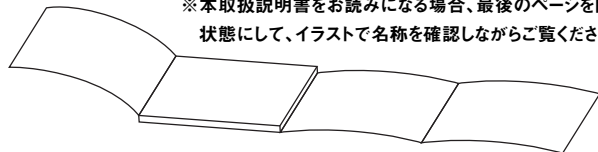
ごあいさつ

このたびは、メッツ「メカブリッツ50AF-1」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、十分に性能を生かして正しくお使いください。

お読みになった後は必ず保管してください。

本取扱説明書の中で、すべてのカメラタイプとそれぞれの専用機能について詳述できません。カメラの取扱説明書のストロボに関する項目をご参照いただき、サポートされている機能や、設定の仕方をご確認ください。

※本取扱説明書をお読みになる場合、最後のページを開いた状態にして、イラストで名称を確認しながらご覧ください。



1. 安全上のご注意

【必ずお守りください】

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守りください。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。



警告

●本機は、写真撮影専用に製造された製品です。●人や動物の目に近い場所で、本機を決して発光させないでください。網膜にダメージを与え、失明する危険性があります。●可燃性のガスや液体（ガソリンやアルコールなどの溶媒）のそばで、決して使用しないでください。爆発を引き起こす恐れがあります。●車、バス、電車、自転車やバイクのドライバーなどに向けて決してストロボ発光しないでください。ドライバーの目を眩ませ、事故を引き起こす恐れがあります。●取扱説明書で指定された電源のみをご使用ください。●決して電池を分解したり、ショートしたりしないでください。●直射日光の当たる場所や火のそばなど過剰な高温状態のなかに、決して電池をさらさないでください。●消耗した電池を火の中に投げ入れないでください。●短い発光間隔で何回か発光させた後に、ディフューザーに触らないでください。発火の危険性があります。●光を通さないものを、決してリフレクターの前においたり、触れさせたりしないでください。発光の高熱により、それが燃えたり、破裂したりする、または、リフレクターが破損する場合があります。●本機の接点に触れないでください。●本機がひどく破損し内部の部品が露出したときは、本機を使用しないでください。その際、電池は取り外してください。●連続発光後は、リフレクターに触らないでください。やけどをする危険があります。●決して本機を分解しないでください。高電圧により危険です。修理は指定のサービスセンターへご相談ください。



注意

●消耗した電池はすぐにストロボから取り出してください。液もれにより、機器が故障する原因となります。●乾電池は決して充電しないでください。●水の飛沫や、水滴にさらさないでください。●高温多湿の場所にさらさないでください。車のダッシュボードの中などに保管しないでください。●ストロボの構成部品は、専門家以外の人は分解修理できません。●速いリサイクルタイムで、続けざまにフル発光を行うときは、15回発光させた後に少なくとも10分間は休止してください。そうしなければ、ストロボに負荷がかかりすぎてしまいます。●35mmやそれ以下の広角のときに、速いリサイクルタイムで、続けざまにフル発光を行うと、高レベルのエネルギー照射により拡散板が高熱になります。●本機は、カメラの内蔵ストロボのポップアップが完全に開くタイプであれば、共用することができます。●急な温度変化により結露が生じた場合は、時間をかけてゆっくり環境になじませてください。●正常でない電池は絶対に使用しないでください。



その他の注意

●ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。●本機を長期間使用しない場合は、電池を抜いて保管してください。

目 次

安全上のご注意

撮影の準備	1
電源について	1
カメラへの取り付け・取り外し	1
液晶画面のバックライト照明	1
発光距離表示	2
調光確認表示	2
基本的な操作方法	2
撮影モードの設定 (MODE)	2
TTLモード(スタンダードTTL/フィルムカメラ)	3
プリ発光式TTLモード(デジタルカメラ)	3
Mモード(マニュアルモード)	3
Mモードでの発光量の設定	3
HSS / FPモード(ハイスピードシンクロ)	3
TTL日中シンクロモード	3
TTLモードでの調光補正機能	4
特別機能セレクト (SELECT)	4
ズーム (Zoom / M.Zoom)	4~5
後幕シンクロ (REAR)	5
ワイヤレスリモートモード (SL) (Canon/Nikon/Olympus)	6~7
フラッシュブラケット (FB)	7
オートオフ機能 (Ⓢ 時計マーク)	8
モデリングライト (ML)	8
拡張ズーム機能 (Ex)	9
ズームサイズ調節機能 (S Zoom)	9
メーターとフィートの切換 (m/ft)	10
ストロボテクニク	10
バウンス発光	10
反射パネルを使ったバウンス発光	10
近接/マクロ撮影	10
FE/FVロック	10
ストロボ同調方式	11
ストロボ同調スピード自動設定	11
先幕シンクロ	11

後幕シンクロ (REAR)	11
スローシンクロ (SLOW)	11
赤目軽減発光	11
自動AF補助光	12
発光制御 (auto-flash)	12
カメラ本体の各メーカー別 機能説明	12
50AF-1 Canon 専用機能	12
サーボモード (SERVO) (スレープ)	13
50AF-1 Nikon 専用機能	14
FEEエラー表示	15
露出アンダー警告「EV」	15
サーボモード (SERVO) (スレープ)	15~16
50AF-1 Olympus 専用機能	16
サーボモード (SERVO) (スレープ)	17
50AF-1 Pentax 専用機能	18
スポットビームモード (Sb)	18
コントラストコントロール (CC)	18~19
ワイヤレスリモートモード (SL)	19~20
50AF-1 Sony 専用機能	20
ワイヤレスリモートモード (SL)	21~22
メンテナンスとお手入れ	22
ファームウェアアップデート	22
リセット	22
コンデンサのメンテナンス	22
トラブルシューティング	23~24
テクニカルデータ	25
オプションアクセサリ	26
表1: 最大発光時のガイドナンバー	26
表2: 発光量設定時の閃光時間	27
表3: 電池タイプ別のリサイクルタイムと発光回数	27
表4: HSSモード時の最大ガイドナンバー	27
保証書	28
ストロボと付属品を確認する	30
各部の名称	31~32

撮影の準備

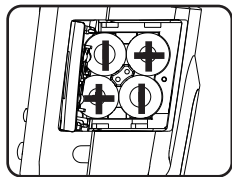
電源について

使用できる電池/充電電池の種類

- 単3形ニッケル電池 1.2V 4本
リサイクルタイムが早く、充電により繰り返し使えるので経済的。
- 単3形ニッケル水素電池 1.2V 4本
ニッケル電池に比べより高容量で、カドミウムフリーなので環境負荷も少ない。
- 単3形アルカリ乾電池 1.5V 4本
標準的なパワーを持つ一次電池。
- 単3形リチウム電池 1.5V
自己放電の少ない高容量の一次電池。

電池を入れる

- ストロボのメインスイッチをOFFにします。
- 電池蓋を横にスライドさせて開きます。
- 電池蓋内側の極性表示にあわせ電池を入れ、電池蓋を元の通りに閉めます。



-  電池を入れるときは、極性が正しく、電池蓋の表示と適合していることを確認してください。極性を間違えると、ストロボが破損するおそれがあります。電池は常に全部同時に交換を行ってください。そして、電池は同一ブランドで同じ容量のものであることを確認してください。使い切った電池は、一般ごみとして廃棄しないでください。環境保護のため、決められた方法で廃棄して下さい。フル発光後、再び充電完了ランプ③が点灯するまで1分以上かかるときは電池が消耗していますので交換してください。

電源のオン、オフ

- メインスイッチ①をONの位置にスライドさせると電源が入ります。
- 充電が完了すると充電完了ランプ③が点灯します。
- テスト発光ボタン③を押すと、ストロボが発光します。
- 電源を切るときは、メインスイッチを左にスライドします。

-  長期間ストロボを使用する予定がないときは、電源を切って電池を外してください。

カメラへの取り付け・取り外し

-  取り付けや取り外しの前に、カメラとストロボの電源を切ってください。

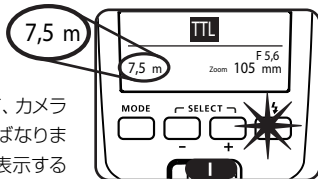
- ロックピンが完全に見えなくなるまで、ロックリング⑩を回してください。
- ストロボをカメラのホットシューに奥まで差し込んでください。
- ロックリングをしっかり締めて、本機を固定します。カメラにロックピン用の穴がない場合は、バネ式のロックピンが引っ込んだままになり、カメラの表面に傷をつけないようになっています。
- 取り外しは、ロックリングを完全に緩め、ホットシューからスライドさせて抜きます。

液晶画面のバックライト照明

本機のボタン(MODE/SELECT)を押すと、液晶画面のバックライトが10秒間点灯します。カメラのシャッターを切るか、または、ストロボのテスト発光ボタン  ③を押してテスト発光を行うと、バックライト照明は消えます。

発光距離表示

ISO感度、レンズ焦点距離、絞り値情報を送信するカメラに装着されている場合、発光距離範囲が表示されます。表示するためには、例えばシャッターを半押しするなどして、カメラとストロボの間でデータ通信を行わなければなりません。発光距離範囲はメートルかフィートで表示することが出来ます。

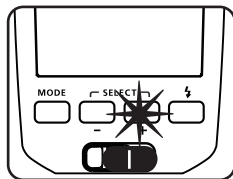


☞ 以下の場合、発光距離は液晶画面に表示されません。

- カメラからデータが受信できないとき
- 発光部が上左右にバウンスしているとき
- ワイヤレスリモートモードのとき
- 発光部が下にバウンスしているときは、発光距離は点滅します。

調光確認表示

TTLモードにおいて、撮影が適正調光で行われたとき、調光確認表示「OK」④が点灯します。撮影後、「OK」が点灯しないときは、撮影が露出アンダーになったことを表しています。その場合、絞りを1段開けてもう一度撮影を行ったり（例えば、F11の代わりにF8に設定するなど）、または被写体や反射面（バウンス時）までの距離を短くしたりする必要があります。最大発光距離は、ストロボの液晶画面に表示されます。



基本的な操作方法

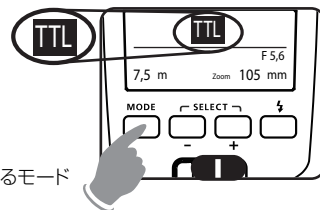
50AF-1では、ストロボ背面のモード(MODE)とセレクト(SELECT)のボタン操作により、各種撮影機能の設定が簡単に行えます。

- モードボタン：調光方式の切り替えを行います。
- セレクトボタン：特別機能の選択を行います。
- + - ボタン：特別機能のON/OFF等を行います。

☞ モード・セレクトのそれぞれの操作はボタンを押した後、5秒以内に次の操作に移ってください。5秒間操作をしなかった場合は、通常画面に戻ります。

撮影モードの設定(MODE)

1. モードボタンでストロボの調光方式の変更ができます。
2. ストロボとカメラの電源をONにし、シャッターを半押しして、通信を行います。
3. モードボタンを押すと現在設定されているモードが点滅します。
4. 点滅中に再度モードボタンを押すと表示が切り替わります。



キヤノン	E-TTL → E-TTL-HSS → M → M-HSS
ニコン	⚡ TTL → ⚡ TTL BL → M
ペンタックス	P-TTL → P-TTL-HSS → M → Sb
オリンパス	TTL → TTL-HSS → M → M-HSS
ソニー	TTL → TTL-HSS → M → M-HSS

☞ カメラのタイプにより、利用できるモードは異なります。ニコンカメラのHSSモードは、カメラ側で設定してください。

TTLモード(スタンダードTTL/フィルムカメラ)

TTLモードは、カメラ内蔵センサーがフィルム面を直接測光し、ストロボの発光量をコントロールします。撮影レンズを通した光を測光するため露出倍数のかかるフィルターの使用や、絞り値の変更、ズームレンズの照射角を変更した場合でも適正露出で調光を行います。

プリ発光式TTLモード(デジタルカメラ)

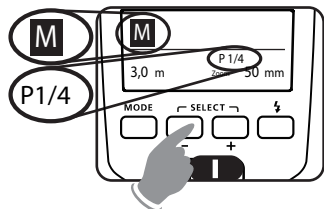
プリ発光式TTLモードは、フィルム一眼レフカメラで使用されるスタンダードTTLに改良を加えたデジタルカメラ用の発光モードです。撮影時、実際の露光前にかすかに見える程度のプリ発光がストロボから照射されます。カメラはプリ発光の反射光を評価測光し、続く本発光で撮影状況に最適な調光を実現します(詳しくは、カメラの取扱説明書をご覧ください)。

Mモード(マニュアル)

マニュアルモード撮影は、特定の撮影状況に適合させるために、絞りや、発光量の設定を調節します。発光量の設定範囲は、1/1(フル発光)から1/128(M-HSSモード1/1から1/32)です。液晶画面には、被写体までの距離が表示され、その距離において適正露出となります。

■Mモードでの発光量の設定

- 「+」か「-」ボタンを押して、発光量の設定をします。
- 「-」ボタンを押すと、フル発光のP1/1から1/2→1/4→1/8→1/16→1/32→1/64→1/128の1ステップ間隔で調整できます。



HSS / FPモード(ハイスピードシンクロ)

自動ハイスピードシンクロ機能は、ストロボ同調スピードよりも速いシャッタースピードでストロボ発光できるモードです。このモードは、例えば定常光が明るい中でのポートレート撮影時に、開放絞り(例えばF2)を使って被写界深度を浅くしたいときなどに良く使われます。ハイスピードシンクロは、「**プリ発光式TTL**」や「**M**」モードでお使いいただけます。

ただし、システム上の理由から、ハイスピードシンクロはガイドナンバーや最大発光距離を著しく減少させます。使用時は、ストロボの液晶画面の最大発光距離表示に注意してください。ハイスピードシンクロはシャッタースピードが、ストロボ同調スピードよりも早くなったときに自動的に起動します。

👉 **ハイスピードシンクロの場合、ガイドナンバーはシャッタースピードによって変わります。シャッタースピードが速いほど、ガイドナンバーは小さくなります。**

TTL日中シンクロモード

TTL日中シンクロモードは、日中において、プログラムモードまたはフルオートモードで機能します(カメラの取扱説明書をご覧ください)。

日中シンクロは、日中の目障りな影を和らげ、逆光時の被写体と背景との間によりよい露出バランスを生み出します。シャッタースピード、絞り、発光量は、カメラのコンピュータ制御による測光システムによって最適な組み合わせにセットされます。

👉 **カメラのTTL測光システムが正常に機能しなくなりますので、逆光の太陽が直接レンズに入らないようにご注意ください。**

TTL日中シンクロのためのストロボ側での設定や表示はありません。

TTLモードでの調光補正機能

調光補正は、意図的に露出をオーバーまたはアンダーにしたい場合、または、被写体の反射率によって適正露光にならないような場合に補正を行います。

活用事例

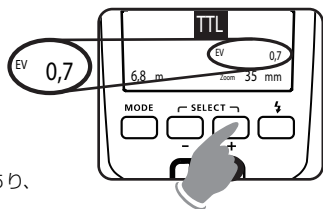
明るい背景の前にある暗い被写体 → プラス補正

暗い背景の前にある明るい被写体 → マイナス補正

■調光補正值の設定

- 「+」か「-」ボタンを押すと、「EV」が点滅します。
- 「EV」が点滅中に、「+」ボタンで、プラス補正ができます。「-」ボタンで、マイナス補正ができます。

調光補正值は、-3EVから+3EVまであり、1/3EVステップごとに調節できます。



特別機能セレクト(SELECT)

1. 2つのセレクトボタンを同時に押して特別機能の選択を行います。
2. 「+」「-」ボタンを押して「ON」「OFF」等の設定を行います。

ズーム (Zoom)

本機がレンズ焦点距離情報の通信を行えるカメラに装着されている場合、メインリフレクター⑩のズーム照射角が、レンズ焦点距離に合わせて自動設定されます。メインリフレクターの照射角は、24mm-28mm-35mm-50mm-70mm-85mm-105mm (35mm フォーマット) の焦点距離をカバーできます。レンズ焦点距離が24mm以下の場合には液晶画面の「24」が点滅し、撮影が完全に行われないことを警告します。

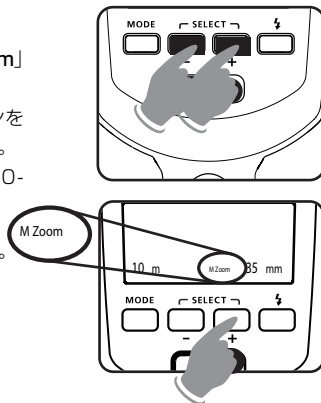
マニュアルズーム (M.Zoom)

レンズ焦点距離情報を送信しないカメラにストロボを取り付けた場合、または、意図的にズーム位置を変えたい場合は、メインリフレクターの照射角を、手動設定してください。

■マニュアルズームの設定

- 「Select」ボタンを同時に押して、「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して、ズーム照射角を設定してください。設定できる照射角は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mmフォーマット)

点滅は5秒後に止まり、設定保存されます。



活用事例

ストロボを必ずしも最大光量や最大発光距離で使用しない場合、照射角をズームレンズの一番広角側に合わせて固定してみてください。この方法を使えば照射角が撮影画角全体を万遍なくカバーしますし、レンズ焦点距離を変えるたび毎回ズーム調節をしなくても良くなります。

【例】：35-105mmのズームレンズをお使いの場合、ストロボの照射角は35mmにセットしてください。

マニュアルズームからオートズームへのリセット

- シャッターを半押しし、ストロボとカメラがデータ通信できるようにします。
- 「Select」ボタンを同時に押して、「M.Zoom」を点滅させます。
- 「M.Zoom」が点滅中に、「+」ボタンを繰り返し押すと、「M.Zoom」の点滅が、「Zoom」（オートズーム）に変わり、レンズ焦点距離に自動連動したメインリフレクターの照射角を表示します。
点滅は約5秒後に止まり、設定が自動保存されます。

☞ メインスイッチ①により本機の電源をもう一度入れなおすと、マニュアルズームからオートズームへ復帰します。

ワイドパネル

- ワイドパネル⑨を使用すると12mmの照射角をカバーします（35mmフォーマット）。ワイドパネルをメインリフレクターから引き出し、止まる場所で手を離します。ワイドパネルは自動でリフレクターに重なります。ワイドパネルを元の位置に戻すには、パネルを90°上げてから中に押し込みます。



☞ ワイドパネル⑨使用時は、オートズームは機能しません。

メカバウンス 58-90

- メカバウンス 58-90（オプションアクセサリ）をメインリフレクター⑩に装着すると16mmの照射角をカバーします。

☞ メカバウンス使用時は、オートズームは機能しません。

☞ ワイドパネルとメカバウンスは、同時に使用できません。

後幕シンクロ (REAR)

カメラによって、後幕シンクロ機能を使用できます。

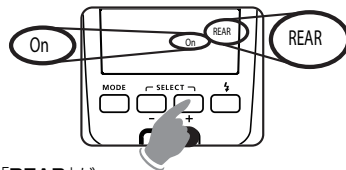
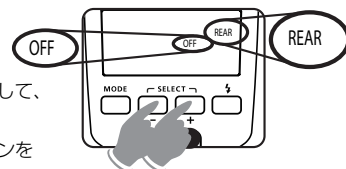
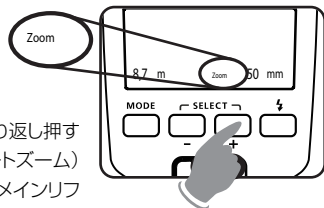
■設定方法

- シャッターを半押ししてストロボとカメラの間で通信を行ってください。
- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「REAR」を点滅させます。
- 「REAR」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。

- 「REAR On」の表示、後幕シンクロが起動します。
- 「REAR OFF」の表示、後幕シンクロが解除します。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。後幕シンクロ起動後は、「REAR」が液晶画面に表示されます。

☞ ハイスピードシンクロ機能（FPまたはHSS）が本機にセットされているときは、後幕シンクロ機能は起動できません。



ワイヤレスリモートモード (SL) (Canon / Nikon / Olympus)

本機は、ワイヤレスリモートシステムのスレープ機能をサポートしています。リモートシステムは、カメラに装着されたマスターストロボやコントローラーによって、一台以上のスレープストロボを同時に遠隔操作でコントロールできます。

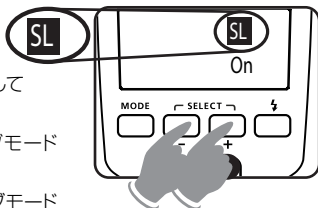
スレープストロボは、3つのグループ(A、B、C)にセットできます。マスターストロボやコントローラーは、これらのグループを同時に制御したり、同時にグループごとの設定を認識したりすることが出来ます。

同じ部屋で、複数のリモートシステムを使用する場合は、お互いに干渉をしないようにするために、4つのチャンネル(1、2、3、4)にセットできます。マスターストロボ、コントローラーとスレープストロボは、同じリモートチャンネルに設定しなければいけません。スレープストロボは、マスターストロボやコントローラーの発光を、リモートセンサー⑤によって受信できるようにしなければいけません。

 カメラのモデルによりますが、カメラの内蔵ストロボもマスターやコントローラーとして機能します。マスターやコントローラーとしての詳しい使い方や設定方法は、それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。

■ワイヤレススレープモードの設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SL」を点滅させます。
- 「SL」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定をしてください。
- 「SL/On」の表示で、ワイヤレススレープモードが起動します。
- 「SL/OFF」の表示で、ワイヤレススレープモードは解除されます。

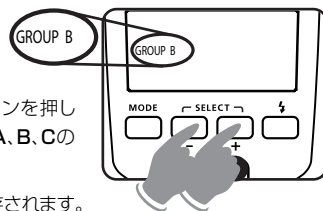


点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。ワイヤレススレープモード起動後は、「SL」、スレープグループ (GROUP)、リモートチャンネル (CH) が表示されます。

■スレープグループの設定

- 「SL」マークが点滅している状態で、「Select」ボタンを同時に押して、「GROUP」を点滅させます。
- 「GROUP」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。グループは、A、B、Cの選択が可能です。

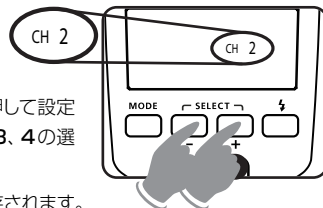
点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。



■リモートチャンネルの設定

- 「SL」マークが点滅している状態で、「Select」ボタンを同時に2回押して、液晶画面に「CH」を点滅させます。
- 「CH」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。チャンネルは、1、2、3、4の選択が可能です。

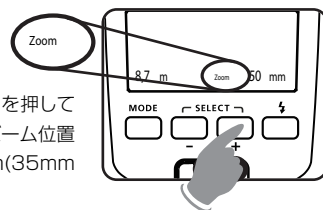
点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。



■ズーム位置の設定

- 「SL」マークが点滅している状態で、「Select」ボタンを同時に3回押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mmフォーamat)で設定可能です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。



リモートスレーブモードのテスト

- スレーブストロボを、撮影するために適当な場所に設置してください。スレーブストロボを設置するためには、ストロボスタンドS60 (オプションアクセサリ) を使用してください。
- スレーブとして使用するすべてのストロボが発光準備完了になるまで待機してください。発光準備が完了すると、スレーブストロボのAF補助光⑩が点滅します。
- マスターストロボかコントローラーの手動発光ボタンを押して、テスト発光してください。スレーブストロボがスレーブグループ分けに当たって、テスト発光に反応をします。スレーブストロボがテスト発光を行わないときは、リモートチャンネルやスレーブグループのチェックを行ってください。マスターストロボの発光を受光できるようにスレーブストロボの位置を調整してください。

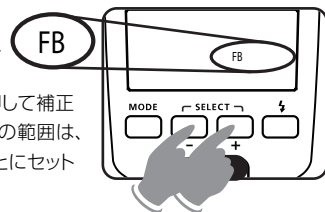
 発光モード情報はマスターストロボかコントローラーによって、自動的に送信されます。カメラによっては、ワイヤレスリモートシステムのマスターとしてストロボが機能しているときは、スレーブストロボのモデリングライトもコントロールできます。(カメラの取扱説明書でご確認ください)。

フラッシュブラケット (FB)

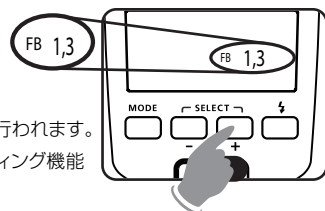
フラッシュブラケット撮影は、ストロボがTTLモードのとき、発光量を一定の幅で3段階に分けて調光する機能です。

■設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「FB」を点滅させます。
- 「FB」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して補正値の設定をします。設定できる補正値の範囲は、1/3 絞りから3 絞りまでで、1/3 絞りごとにセットできます。



- 1 回目の撮影は、「A 表示」補正なしで行われます。
- 2 回目の撮影は、「B 表示」マイナス補正で行われます。
- 3 回目の撮影は、「C 表示」プラス補正で行われます。
- 3 回目の撮影後は、フラッシュブラケット機能は、自動的に解除されます。



 フラッシュブラケットは、ストロボの調光補正機能をサポートしているカメラでのみ可能です。サポートしていない場合は、撮影は補正値なしで行われます。

オートオフ機能 ⓐ (時計マーク)

電池の無駄な消耗を防ぐため、無操作状態が10分間続くと自動的に電源が切れるようになっています。

もう一度電源を入れるには、カメラのシャッターボタンを半押しします。または、ストロボのボタンを押すことも可能です。(ウェークアップ機能)

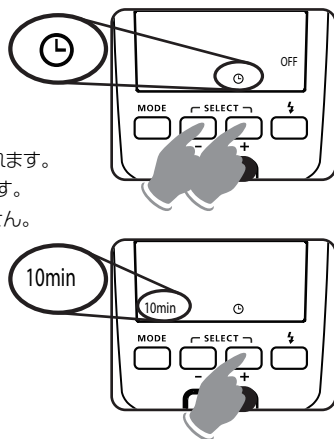
 長期間使用しないときは、メインスイッチ①の電源を切るようにして下さい。

最後の操作から1分後にオートオフになるようにセットすることもできます。また、オートオフ機能は解除することもできます。

■ オートオフ機能の設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「ⓐ」を点滅させます。
- 「ⓐ」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。
- 「10min」の表示、電源が10分後に切れます。
- 「1min」の表示、電源が1分後に切れます。
- 「OFF」の表示、自動的に電源は切れません。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。オートオフ機能起動後は、「ⓐ」が液晶画面に表示されます。



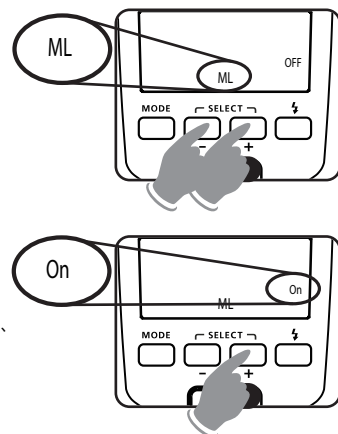
モデリングライト (ML)

モデリングライトは、定常光のように見える約3秒間の高周波による連続マルチ発光です。モデリングライトにより、ユーザーは、光の当たり方や影の出方を撮影前にチェックすることができます。モデリングライトは、テスト発光ボタン③により照射を行います。

■ 設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「ML」を点滅させます。
- 「ML」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。
- 「ML On」の表示、モデリングライトが起動しています。
- 「ML OFF」の表示、モデリングライトが解除されています。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。モデリングライト起動後は、「ML」が液晶画面に表示されます。



拡張ズーム機能 (Ex)

拡張ズームモードとは、カメラレンズの焦点距離に対し、メインリフレクターの照射角を1段階広角にする機能のことです。これにより、屋内でストロボ光が拡散（反射）され、よりソフトな照明効果を生み出すことができます。

拡張ズームモードの例

カメラレンズの焦点距離: 50mm

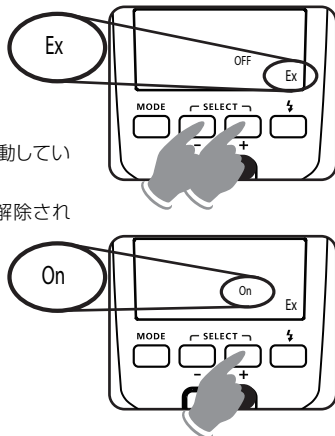
拡張ズームモードでのストロボ照射角: 35mm

※液晶画面には、50mmと表示されます。

■設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「Ex」を点滅させます。
- 「EX」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。
- 「Ex On」の表示、拡張ズーム機能が起動しています。
- 「Ex OFF」の表示、拡張ズーム機能は解除されています。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。拡張ズーム起動後は、「Ex」が液晶画面に表示されます。



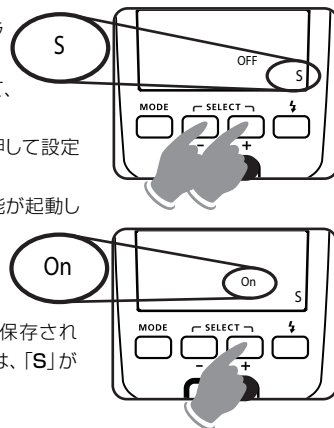
☞ システムによりますが、拡張ズーム機能は28mm (35mmフォーマット) 以上の焦点距離を持つレンズでサポートされます。カメラはレンズ焦点距離情報をストロボに送信する CPUレンズを装着しなければなりません。

ズームサイズ調節機能 (S Zoom)

カメラによっては、ズームサイズ調節機能 (S Zoom) を使って、メインリフレクターの照射角表示をカメラのチップフォーマット (撮像素子のサイズ) に合わせることができます。

■設定方法

- シャッターを半押ししてストロボとカメラの間で通信を行ってください。
 - 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「S」を点滅させます。
 - 「S」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。
 - 「S On」の表示、ズームサイズ調節機能が起動します。
 - 「S OFF」の表示、ズームサイズ調節機能が解除します。
- 点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。ズームサイズ調節機能の起動後は、「S」が液晶画面に表示されます。



☞ 撮影画角調節機能をサポートしないカメラに搭載されているときは、ズームサイズ調節機能は設定できません。

メーターとフィートの切換 (m/ft)

液晶画面の最大発光距離表示はメーターかフィートで表示できます。

■ 設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「m」が「ft」を点滅させます。
- 点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。
- 「m」の表示、メーター表示です。
- 「ft」の表示、フィート表示です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

ストロボテクニック

バウンス発光

バウンス発光は被写体をよりソフトに照射し、濃い影を和らげます。また、前景から背景に向かって降り注ぐ直接光の割合を少なくする効果もあります。メインリフレクター⑩は、水平方向や垂直方向にバウンスすることができます。色かぶりを防ぐためには、反射面は白か淡い色をお選びください。

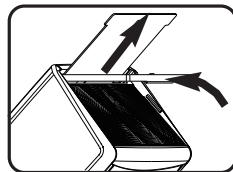
☞ メインリフレクターをバウンスする時は、ロック解除ボタン⑥を押しながら回転させてください。

メインリフレクターを垂直にバウンスさせるときは、基本的に直接光が被写体を照らさないために十分な角度に動かすことが必要です。そのためには、通常はリフレクターを少なくとも60°の位置まで回転させてください。発光部がバウンス状態のとき、直接光が被写体を照らさないように、メインリフレクターの照射角は70mmの位置に移動されます。メインリフレクターの距離範囲とズーム位置は表示されません。

反射パネルを使ったバウンス発光

バウンス使用時に内蔵反射パネル⑦を使うと、人物の目にキャッチライトを入れることができます。

- リフレクターを上方90°に向けてバウンスさせます。
- 反射パネル⑦とワイドパネル⑧を発光部から一緒に引き出します。
- 反射パネルを持ったまま、ワイドパネルを発光部に収納します。



近接/マクロ撮影

クローズアップとマクロ撮影において、ストロボとレンズの位置関係のずれ(パララックス)によって画像の下部分が暗くなります。これを緩和するために、メインリフレクター⑩を下方向-7°の角度に傾けることができます。これを行うには、リフレクターのロック解除ボタン⑥を押しながら、リフレクターを下方向に押し下げます。クローズアップ撮影時には露出オーバーにならないように、決められた最小発光距離を守ってください。

☞ 最小発光距離は、液晶画面に表示される最大発光距離の約10%にあたります。発光部が下に向いているときは、最大発光距離表示が点滅します。クローズアップ撮影のときは、ストロボ光によってレンズの影が画像に写りこまないようにご注意ください。

FE / FV ロック

カメラによっては、FE/FVロック機能 (FE=flash Exposure / FV=Flash Value) をサポートしています (カメラの取扱説明書でご確認ください)。
FE/FVロックは、本発光に必要な発光量をあらかじめロックしておく機能です。ロック中は、構図を変えたり、絞り値を変えても、発光量は追従するので被写体への発光量は変わりません。

☞ FE/FVロックのためのストロボ側での設定や表示はありません。

ストロボ同調方式

ストロボ同調スピード自動設定

カメラの種類や使用するモードによりますが、ストロボが発光完了状態になるとシャッタースピードは自動的にストロボ同調速度に切り替わります。ほとんどのカメラでは、同調スピードは 1/30 秒から 1/125 秒の範囲内にあります。(カメラの取扱説明書でご確認ください)。

 レンズシャッターやハイスピードシンクロ機能が使用されているカメラの場合は、ストロボ同調スピードは自動設定されません。

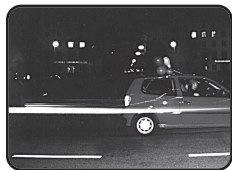
先幕シンクロ

先幕シンクロのときは、カメラのシャッター（先幕）が開いた直後に同調発光します。先幕シンクロは、すべてのカメラで標準の方式で、ほとんどのストロボ発光に適用されています。カメラは使用されているモードにもよりますが、ストロボ同調スピードに切り替えられます。1/30 秒から 1/125 秒の間のスピードが一般的です。



後幕シンクロ (REAR)

カメラの中には、後幕シンクロ (REAR) 機能を備えたものがあります。この機能は、露光が終了する直前に発光を行います。後幕シンクロ (REAR) は、スローシャッタースピード (1/30 以下) を使うときや、光りを発しながら動く物体を撮影するときに、特に効果的です。通常、先幕シンクロのときには、光源の前に光の軌跡ができてしまうのですが、後幕シンクロでは、光の軌跡が光源から出ているように見えるので、よりリアルな動きの印象を与えます。操作モードによりますが、カメラはストロボ同調スピード以下のスロー



シャッターを使用します。

カメラの中には、特定の操作モードで REAR 機能が使用できない場合があります (カメラの取扱説明書でご確認ください)。

スローシンクロ (SLOW)

スローシンクロ機能によって、定常光の照度が低いときに背景を目立たせることができます。そのためには、定常光の露出にシャッタースピードを合わせる必要があります。カメラによっては、特定のプログラムモード (例えば、ナイトショットなど) で自動的にスローシンクロモード (SLOW) が起動します。

ストロボの設定は必要なく、液晶画面にはこのモードの表示はありません。

 スローシンクロ (SLOW) は、カメラ側でセットしてください (カメラの取扱説明書でご確認ください)。スローシャッタースピードによるブレを防ぐためには三脚を使用して下さい。

赤目軽減発光

人物がカメラをまっすぐ見ていて、定常光が暗く、ストロボとカメラの位置関係が近い場合に赤目現象が現れます。瞳孔が大きく開くこのような状況下では、目の中の赤い網膜をストロボが照らし出してしまうです。カメラの中には、赤目軽減のためにプリ発光を行うモデルがあります。一回以上プリ発光を行うと、瞳孔が収縮し始め赤目現象を軽減します。

 カメラによっては、カメラの内蔵フラッシュかまたはカメラボディに組み込まれた照明のみが赤目軽減発光をサポートします (カメラの取扱説明書でご確認ください)。赤目軽減発光はカメラ側で設定します。赤目軽減発光が使用されているときは、後幕シンクロ機能 (REAR) は利用できません。ストロボ側では本機能に関する設定や表示はありません。

自動 AF 補助光

オートフォーカスを行うために定常光が不十分なときには、カメラが自動 AF 補助光を起動します。AF 補助光はストライプ状のパターンを被写体に映し出し、このパターンを使ってカメラが自動的にフォーカシングを行います。AF 補助光はおよそ 6 ～ 9m (50mm F1.7 の標準的なレンズで) の到達距離を持っています。最大到達距離は、カメラの中央測距センサーを使用する場合の距離です。レンズと AF 補助光の位置関係の違い (パララックス) により、AF 補助光の接近できる距離には制限があり、約 0.7m ～ 1m となります。

 自動 AF 補助光①を起動するには、カメラを「シングル AF(S)」にセットして、ストロボの充電を完了させてください。カメラによっては、内蔵の AF 補助光のみをサポートしている場合があります。この場合は、本機の AF 補助光は起動しません (カメラの取扱説明書でご確認ください)。

発光制御 (auto-flash)

カメラによっては、定常光が明るい場合、十分な露出量のためにシャッターを押してもストロボが発光しません。

この発光制御はフルオートまたは、「P」モードで機能します (カメラの取扱説明書でご確認ください)。

カメラ本体の各メーカー別 機能説明

50AF-1 Canon

本機は、キヤノン製フィルムカメラとデジタルカメラ (EOS と PowerShot) で、TTL、E-TTL、E-TTL II 調光を行うカメラにお使いいただけます。

 本機は、他のブランドのカメラには適合しません。

専用機能

- カメラファインダー内発光準備完了表示
- ストロボ同調スピード自動設定
- スタンダード TTL (プリ発光なし)
- E-TTL/E-TTL II モード
- 自動 TTL/E-TTL 日中シンクロモード
- 調光補正機能 (TTL/E-TTL/E-TTL II)
- FE ロック (E-TTL/E-TTL II)
- 先幕または後幕シンクロ (REAR)
- 自動ハイスピードシンクロ (HSS) (E-TTL/E-TTL II/M)
- オートパワーズーム (Zoom)
- 拡張ズーム機能 (Ex)
- ズームサイズ調節機能 (S.Zoom)
- 自動 AF 補助光
- 自動発光距離表示
- プログラム自動発光モード (AUTO FLASH)
- ワイヤレス E-TTL リモートモード (SL)
- ワイヤレススレーブ (SERVO)
- ウェークアップ機能
- ファームウェアアップデート

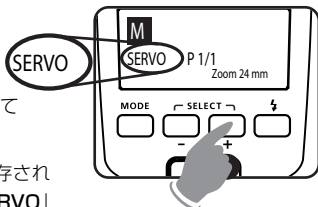
サーボモード (SERVO)

本機は、スレープ機能が備わっています。プリ発光に反応してワイヤレスでマニュアル発光させることができます。

■サーボモードの設定

- カメラを「E-TTL」モードにセットします。
- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SL」を点滅させます。
- 「SL」が点滅中に、「+」ボタンを2回押して「M」「SERVO」を選びます。

点滅が約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。サーボモード起動後は、「M」「SERVO」が液晶画面に点灯します。



■発光量の設定

- 「+」か「-」ボタンを押して、発光量の設定をします。
- 「-」ボタンを押すと、フル発光のP1/1から1/2→1/4→1/8→1/16→1/32→1/64→1/128の1ステップ間隔で調整できます。

■ズーム位置の設定

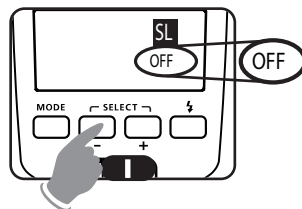
- 「Select」ボタンを同時に押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mmフォーマット)で設定可能です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

 他の撮影者がプリフラッシュ撮影をしている場合はそのフラッシュ光に反応して発光します。

■サーボモード設定の解除

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SERVO」を点滅させます。
- 「SERVO」が点滅中に、「-」ボタンを2回押してサーボモードを「OFF」にします。



50AF-1 Nikon

本機は、ニコン製フィルムカメラとデジタルカメラで、TTL、D-TTL、i-TTL 調光を行うカメラと、富士フィルムデジタルカメラの、FinepixS3Pro / S5Proにお使いいただけます。

 本機は、他のブランドのカメラには適合しません。

専用機能

本機は、以下の機能をサポートしています。カメラのタイプによってサポートする機能は異なります (カメラの取扱説明書でご確認ください)。

■カメラグループの分類

ニコンカメラは、専用機能によって以下のグループに分類されています。

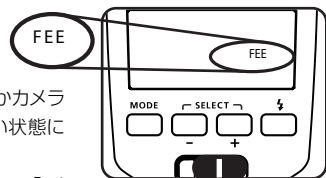
グループAのカメラ	ストロボとデジタルデータ通信を行わないカメラ 【例】: Nikon F601, F601M, F60, F50, FM-3A デジタルコンパクトカメラニコンクールピクス
グループBのカメラ	ストロボとデジタルデータ通信を行うカメラ 【例】: Nikon F4, F4s, F801, F801s
グループCのカメラ	ストロボとデジタルデータ通信を行い、3D マルチ BL 調光をサポートするカメラ 【例】: Nikon F5, F100, F80, F70
グループDのカメラ	D-TTL 調光モードをサポートするデジタル一眼レフカメラ (CLS 非対応) 【例】: Nikon D1, D1x, D1H, D100, Fuji FinePixS3Pro
グループEのカメラ	i-TTL 調光モードをサポートするデジタル一眼レフカメラ (CLS 対応) 【例】: Nikon D40, D50, D70, D80, D90, D200, D300, D2Hs, F6, D2x, D3, D3000, D5000, CoolPix8400, 8800, Fuji FinePixS5Pro

カメラグループ					専用機能
A	B	C	D	E	
●	●	●	●	●	カメラファインダー / カメラディスプレイでの充電完了表示
●	●	●	●	●	カメラファインダー / カメラディスプレイでの調光確認表示
		●	●	●	ストロボ液晶画面での露出アンダー表示 EV
●	●	●	●	●	ストロボ同調スピード自動設定
●	●	●			スタンダードTTL (プリ発光なし)
●	●	●	●	●	自動TTL 日中シンクロ
●	●				TTL-BL 調光
		●			3D マルチ BL 調光
			●		D-TTL、D-TTL 3D モード
				●	i-TTL、i-TTL-BL モード
				●	FV ロック (※クールピクスを除く)
	●	●	●	●	調光補正
		●	●	●	後幕シンクロ (REAR)
				●	自動 FP 発光 (HSS)
	●	●	●	●	オートパワーズーム (Zoom)
	●	●	●	●	拡張ズームモード (Ex)
				●	ズームサイズ調節機能 (S.Zoom)
●	●	●	●	●	AF 補助光
	●	●	●	●	発光距離自動表示
●	●	●	●	●	プログラム自動発光モード
		●	●	●	赤目軽減プリ発光
		●	●	●	発光制御 (auto-flash)
				●	ワイヤレスリモートモード (アドバンスドワイヤレスリモートモード)
●	●	●	●	●	ウェークアップ機能

FEE エラー表示

カメラのモデルやモード設定によっては、レンズの絞りリングを最大F値（最小絞り）に設定する必要があります。そうでない場合は、エラーメッセージ「FEE」がストロボかカメラに表示され、カメラのシャッターが切れない状態になります。

カメラのモデルによっては、カメラがプログラム「P」やシーンモードのときに、ストロボのマニュアルモード「M」をサポートしません。このような場合は、警告として「FEE」が表示されシャッターがロックされます。FEE表示が出た場合は、カメラやレンズの設定をチェックしてください（カメラの取扱説明書でご確認ください）。



露出アンダー警告「EV」

グループC、D、Eのカメラは露出アンダーを感知して、アンダー分の露出量をF値で表示しながら、液晶画面に警告表示を出します。

撮影後、調光確認表示④が「OK」を表示しないときや、カメラのファインダー内でフラッシュマークが点滅するときは、本機の液晶画面に1/3ステップごとに-0.3EV～-3.0EVの範囲で露出アンダー表示します。

境界線上のケースでは、ストロボの液晶画面に「OK」は表示されません。たとえ適正調光が行われても、カメラファインダー内では発光マークが点滅します。この場合は、ストロボの液晶画面には何も表示されません。

 露出アンダー警告表示を行うには、TTLモード（3D-TTL、D-TTL、i-TTL）をストロボにセットしてください。

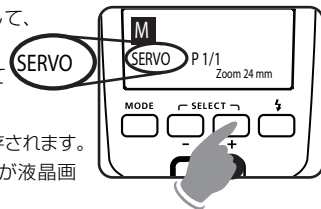
サーボモード（SERVO）

本機は、スレープ機能が備わっています。他のフラッシュ光に反応してワイヤレスでマニュアル発光させることができます。

■サーボモードの設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SL」を点滅させます。
- 「SL」が点滅中に、「+」ボタンを2回押して「M」「SERVO」を選びます。

点滅が約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。サーボモード起動後は、「M」「SERVO」が液晶画面に点灯します。



■発光量の設定

- 「+」か「-」ボタンを押して、発光量の設定をします。
- 「-」ボタンを押すと、フル発光のP1/1から1/2→1/4→1/8→1/16→1/32→1/64→1/128の1ステップ間隔で調整できます。

■ズーム位置の設定

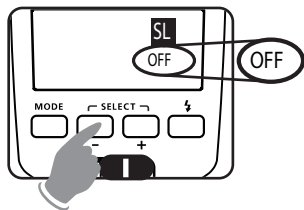
- 「Select」ボタンを同時に押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mm フォーマット)で設定可能です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

 プリ発光を行うカメラでは、プリ発光に連動してストロボが発光してしまうためサーボモードは使用できません。
他の撮影者がストロボ撮影をしている場合はそのストロボ光に反応して発光します。

■サーボモード設定の解除

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SERVO」を点滅させます。
- 「SERVO」が点滅中に、「-」ボタンを2回押してサーボモードを「OFF」にします。



50AF-1 Olympus

本機は、TTL 調光を行うオリンパス製デジタル一眼レフカメラおよびパナソニック、ライカブランドのオリンパス互換カメラにお使いいただけます。

 本機は、他のブランドのカメラには適合しません。

専用機能

本機は、以下の機能をサポートしています。カメラのタイプによってサポートする機能は異なります（カメラの取扱説明書でご確認ください）。

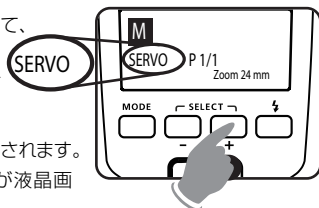
- カメラファインダー内発光準備完了表示
- ストロボ同調スピード自動設定
- フォーサース・システム互換
- 発光制御 (AUTO-FLASH)
- プリ発光式 TTL 調光
- 自動 TTL 日中シンクロモード
- TTL 調光補正機能
- 先幕または後幕シンクロ (REAR)
- 自動ハイスピードシンクロ (HSS)
- オートパワーズーム (Zoom)
- 自動 AF 補助光
- 自動発光距離表示
- プログラム発光モード
- 赤目軽減プリ発光
- ワイヤレス TTL リモートスレーブモード (SL)
- サーボモード (SERVO)
- ウェークアップ機能
- ファームウェアアップデート

サーボモード (SERVO)

本機は、スレープ機能が備わっています。他のフラッシュ光に反応してワイヤレスでマニュアル発光させることができます。

■サーボモードの設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押し、液晶画面に「SL」を点滅させます。
 - 「SL」が点滅中に、「+」ボタンを2回押して「M」「SERVO」を選びます。
- 点滅が約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。
サーボモード起動後は、「M」「SERVO」が液晶画面に点灯します。



■発光量の設定

- 「+」か「-」ボタンを押して、発光量の設定をします。
- 「-」ボタンを押すと、フル発光のP1/1 から $1/2 \rightarrow 1/4 \rightarrow 1/8 \rightarrow 1/16 \rightarrow 1/32 \rightarrow 1/64 \rightarrow 1/128$ の1ステップ間隔で調整できます。

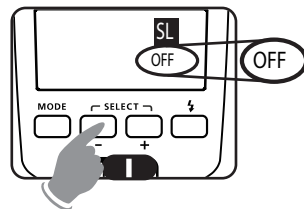
■ズーム位置の設定

- 「Select」ボタンを同時に押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
 - 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mmフォーマツト)で設定可能です。
- 点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

 プリ発光を行うカメラでは、プリ発光に連動してストロボが発光してしまうためサーボモードは使用できません。
他の撮影者がストロボ撮影をしている場合はそのストロボ光に反応して発光します。

■サーボモード設定の解除

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押し、液晶画面に「SERVO」を点滅させます。
- 「SERVO」が点滅中に、「-」ボタンを2回押してサーボモードを「OFF」にします。



50AF-1 Pentax

本機は、TTL、P-TTL 調光を行うペンタックス製フィルム一眼レフカメラとデジタル一眼レフカメラおよびサムスンブランドのペンタックス互換カメラにお使いいただけます。

 本機は、他のブランドのカメラには適合しません。

専用機能

本機は、以下の機能をサポートしています。カメラのタイプによってサポートする機能は異なります (カメラの取扱説明書でご確認ください)。

- カメラファインダー内発光準備完了表示
- TTL モード使用時のカメラファインダー内の露出制御表示
- ストロボ同調スピード自動設定
- フラッシュブラケット (FB)
- 発光制御 (AUTO FLASH)
- コントラストコントロール (CC)
- スポットビームモード (Sb)
- TTL モード
- P-TTL モード
- 自動 TTL/P-TTL 日中シンクロモード
- 調光補正機能
- 先幕または後幕シンクロ (REAR)
- 自動ハイスピードシンクロ (HSS) (TTL)
- オートパワーズーム (Zoom)
- 自動 AF 補助光
- 自動発光距離表示
- プログラム発光モード
- 赤目軽減発光
- ワイヤレス P-TTL リモートモード (SL)
- ウェークアップ機能
- ファームウェアアップデート

スポットビームモード (Sb)

スポットビームモードでは、低照度時、AF 補助光を使って被写体にピントを合わせることができます。このモードでは、撮影を行ってもストロボ発光しません。スポットビームモードでは、カメラファインダー内の充電完了表示や露出制御表示が表示されません。カメラはストロボ同調スピードにセットされず、ストロボが接続されていないときのように動作します。

 スポットビームは、本機の電源が ON で発光準備完了しているときに、機能します。

カメラのシャッターが押されたとき、ストロボは発光しません。

■ 設定方法

- 「Mode」ボタン②を繰り返し押して、「Sb」を点滅させます。
- 点滅は5秒後に止まり、設定は自動保存されます。液晶画面には「Sb」が点灯します。

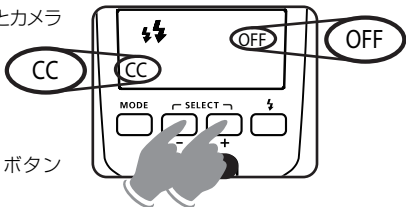
コントラストコントロール (CC)

TTL と P-TTL モードのとき、カメラの内蔵ストロボと外付けストロボ (メッツ 50AF-1 P) の組み合わせでコントラストがコントロールされます。内蔵ストロボが全光量の 1/3 を、外付けストロボが全光量の 2/3 を発光します。コントラスト制御の利点は、外付けストロボをカメラから離して発光させたときに効果があります。

ストロボをカメラから離す場合、以下のペンタックスアクセサリが利用できます。「(外部ストロボを取り付けるための) オフカメラシューアダプター F」と「(カメラに接続するための) オフカメラシューアダプター FG」を「延長コード F5P」を接続します。この部分に関しては、カメラの取扱説明書をご参照ください。メカブリッツの AF 補助光は、コントラスト制御モードのときは使用できません。

■設定方法

- シャッターを半押しし、ストロボとカメラが通信を行ってください。
 - 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「CC」を点滅させます。
 - 「CC」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定をしてください。
 - 「On」の表示、コントラストコントロールが起動します。
 - 「OFF」の表示、コントラストコントロールは解除されます。
- 点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。コントラストコントロール起動後は、「P  TTL」が表示されます



 コントラストコントロールは、内蔵ストロボがOFFのとき、ストロボのモードが、TTLやP-TTLでないとき、先幕シンクロにセットされていないと設定できません。

ワイヤレスリモートモード (SL)

本機は、ペンタックスのワイヤレスP-TTLリモートシステムのスレープ機能をサポートしています。

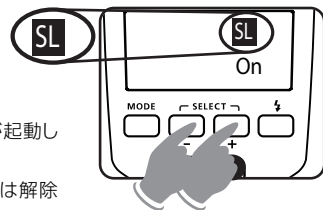
リモートシステムは、内蔵ストロボをマスターストロボ、コントローラーとして、一台以上のスレープストロボを同時に遠隔操作できます
同じ部屋で、複数のリモートシステムを使用する場合は、お互いに干渉をしないようにするために、4つのチャンネル(1、2、3、4)にセットできます。マスターストロボ、コントローラーとスレープストロボは、同じリモートチャンネルに設定しなければいけません。スレープストロボは、マスターストロボやコントローラーの発光を、リモートセンサー⑤によって受信できるようにしなければいけません。

 マスターやコントローラーとしての詳しい使い方や設定方法は、それぞれのカメラの取扱説明書をご覧ください。

■リモートスレープモードの設定方法

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SL」を点滅させます。
- 「SL」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定をしてください。
- 「On」の表示、リモートスレープモードが起動します。
- 「OFF」の表示、リモートスレープモードは解除されます。

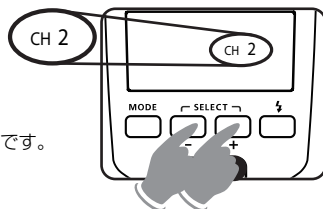
点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。リモートスレープモード起動後は、「SL」、リモートチャンネル「CH」が表示されます。



■リモートチャンネルの設定

- 「Select」ボタンを同時に3回押して、液晶画面に「CH」を点滅させます。
- 「CH」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。

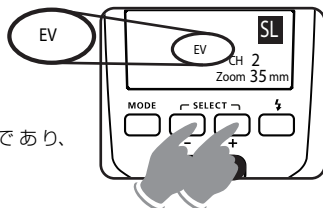
チャンネルは、1、2、3、4の選択が可能です。



■調光補正値の設定

- 「Select」ボタンを同時に2回押して、液晶画面に「EV」を点滅させます。
- 「EV」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。

調光補正値は、-3EVから+3EVまであり、1/3EVステップごとに調節できます。



 補正値がセットされているときは、液晶画面に「EV」が点滅します。

■ズーム位置の設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mmフォーマツト)で設定可能です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

■リモートスレーブモードのテスト

- スレーブストロボを、撮影するために適当な場所に設置してください。スレーブストロボを設置するためには、ストロボスタンドS60（オプションアクセサリ）を使用してください。
- スレーブとして使用するすべてのストロボが発光準備完了になるまで待機してください。発光準備が完了すると、スレーブストロボのAF補助光①が点滅します。
- マスターストロボがコントローラーの手動発光ボタンを押して、テスト発光してください。スレーブストロボがテスト発光に反応をします。スレーブストロボがテスト発光を行わないときは、リモートチャンネルのチェックを行い、マスターストロボの発光を受光できるようにスレーブストロボの位置を調整してください。

50AF-1 Sony

本機は、ソニー製デジタル一眼レフカメラで、TTL、TTL プリ発光、ADI 調光を行うカメラにお使いいただけます。

 本機は、他のブランドのカメラには適合しません。

専用機能

本機は、以下の機能をサポートしています。カメラのタイプによってサポートする機能は異なります（カメラの取扱説明書でご確認ください）。

- カメラファインダー内発光準備完了表示
- ストロボ同調スピード自動設定
- スタンダードTTL（プリ発光なし）
- プリ発光式 TTL/ADI モード
- 自動日中シンクロモード
- 調光補正機能
- 先幕または後幕シンクロ（REAR）
- 自動ハイスピードシンクロ（HSS）（TTL/M）
- オートパワーズーム（Zoom）
- 拡張ズーム機能（Ex）
- 自動 AF 補助光
- 自動発光距離表示
- 発光制御（AUTO FLASH）
- ワイヤレスリモートモード（SL）
- ウェークアップ機能
- ファームウェアアップデート

ワイヤレスリモートモード (SL)

本機は、ソニーのワイヤレスリモートシステムのスレープ機能をサポートしています。リモートシステムは、内蔵ストロボをコントローラーとして、一台以上のスレープストロボを同時に遠隔操作できます。この操作を行っているときは、コントローラーである内蔵ストロボは、スレープストロボの制御のみを行い、露出には影響しません。同じ部屋で、複数のリモートシステムを使用する場合は、お互いに干渉しないようにするために、4つのチャンネル(1、2、3、4)にセットできます。コントローラーとスレープストロボは、同じリモートチャンネルに設定しなければいけません。スレープストロボは、コントローラーの発光を、リモートセンサー⑥によって受信できるようにしなければいけません。

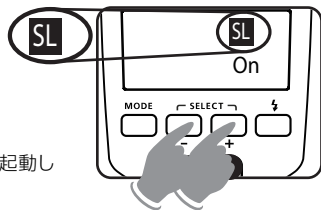
 リモートスレープは、デジタル一眼レフカメラのみサポートされています。リモートスレープモードの設定には、2つの設定方法があります。

■リモートスレープモードの設定方法-1

- カメラに、50AF-1 Sonyを取り付けます。
- カメラとスレープストロボの電源を入れます。
- カメラをワイヤレスモードにセットします(カメラの取扱説明書でご確認ください)。
- カメラとストロボがデータ通信を始めるために、シャッターを半押ししてください。ストロボは自動的にリモートスレープモードになります。同時に、カメラとストロボは、同じリモートチャンネルにセットされます。ストロボの液晶画面に「SL」が点灯します。

■リモートスレープモードの設定方法-2

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「SL」を点滅させます。
- 「SL」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定をしてください。
- 「On」の表示、リモートスレープモードが起動します。



- 「OFF」の表示、リモートスレープモードは解除されます。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。リモートスレープモード起動後は、「SL」が表示されます。

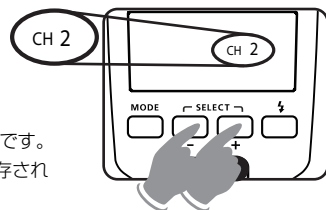
■発光モードの設定

- モードボタンを押して、「TTL」か「M」の設定をします。

■リモートチャンネルの設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「CH」を点滅させます。
- 「CH」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して設定を行ってください。

チャンネルは、1、2、3、4の選択が可能です。点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。



■ズーム位置の設定

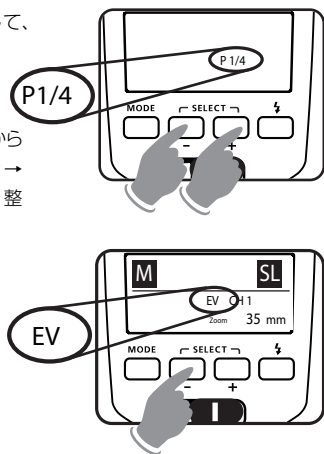
- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「Zoom」を点滅させます。
- 「Zoom」が点滅中に、「+」か「-」ボタンを押して任意のズーム位置に設定してください。ズーム位置は、24-28-35-50-70-85-105mm(35mm フォーマット)で設定可能です。

点滅は約5秒後に止まり、設定は自動保存されます。

■ Mモード設定時の発光量の設定

- 「Select」ボタンを同時に繰り返し押して、液晶画面に「P 1/1」を点灯させます
- 「P 1/1」が点灯中に、「+」か「-」ボタンを押して、発光量の設定をします。
- 「-」ボタンを押すと、フル発光のP1/1から1/2→1/4→1/8→1/16→1/32→1/64→1/128の1ステップ間隔で調整できます。

👉 発光量がセットされているときは、液晶画面に「EV」が点滅します。



■ リモートスレープモードのテスト

- スレープストロボを、撮影するために適当な場所に設置してください。スレープストロボを設置するためには、ストロボスタンドS60（オプションアクセサリ）を使用してください。
- スレープとして使用するすべてのストロボが発光準備完了になるまで待機してください。発光準備が完了すると、スレープストロボのAF補助光⑩が点滅します。
- カメラ操作でテスト発光を行ってください。【例】：AELボタン（カメラのタイプによって異なります。カメラの取扱説明書をご参照ください。）
- スレープストロボは、テスト発光の形式で、遅れて発光します。スレープストロボがテスト発光を行わないときは、リモートチャンネルのチェックを行い、コントローラーの発光を受光できるようにスレープストロボの位置を調整してください。

メンテナンスとお手入れ

汚れや埃があるときは、やわらかい乾いたシリコンクロスで拭きとってください。プラスチック部分を傷めることがありますので、洗剤は使わないでください。

ファームウェアアップデート

ストロボのファームウェアは、アップデート端子⑬を通じてアップデートが行われ、今後発売されるカメラの技術的な必要条件に適合されます。（ファームウェアアップデート）

👉 詳しい情報をお知りになりたい場合は、メッツホームページ www.metz.de にアクセスしてください。

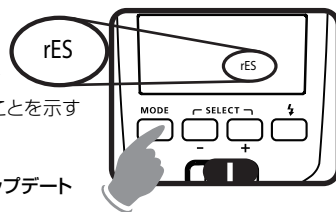
「MODE」ボタンを押しながらメインスイッチを「ON」すると本機のバージョンが液晶画面に表示されます。

通常画面に戻すにはメインスイッチを一旦「OFF」にして再度「ON」にしてください。

リセット

本機は、リセットにより工場出荷時の状態に戻すことができます。リセットするためには、「Mode」ボタンを約5秒間押し続けます。すると、液晶画面に初期化されたことを示す「rES」が表示されます。

👉 リセット機能は、ファームウェアアップデートに影響を与えません。



コンデンサーのメンテナンス

ストロボに組み込まれているコンデンサーは、長期間にわたって電源を入れない場合、劣化が起きます。劣化を防ぐには、3ヶ月ごとに10分程度電源を入れてください。その際、電源オンから1分以内に充電完了ランプが点灯するように、十分な容量のある電池を使ってください。

トラブルシューティング

- ストロボが正常に機能しないときは、ストロボのメインスイッチ①をOFFにして電池を取り外してください。
- カメラの設定をチェックし、ストロボがカメラのシューに正常に装着されているか確認してください。
- 新品電池か、充電されたばかりの電池を入れ、もう1度スイッチを入れると正常に機能します。もし、正常に機能しない場合は、代理店へご連絡をお願いします。

以下は、ストロボ使用時に生じるいくつかの問題をリストアップしています。それぞれの項目に、問題について考えられる原因や対処方法が記載されています。

最大発光距離表示が液晶画面に表示されません。

- カメラとストロボの間で通信が行われていません。シャッターボタンを半押ししてください。
- メインリフレクターが、ノーマルポジションになっていません。

AF補助光が機能しません。

- ストロボの発光準備が完了していない。
- カメラが、シングルAF以外のAFモードになっている。
- カメラが内蔵のAF補助照射を起動させている。
- カメラの中には、中央AFセンサーを使用している時だけストロボのAF補助光を使用する場合があります。中央以外のAFセンサーがセットされている場合は、AF補助光が起動しません。中央のAFセンサーを起動してください。

リフレクターの照射角が、レンズの焦点距離にあわせて自動設定されません。

- カメラとストロボの間で通信が行われていません。シャッターボタンを半押ししてください。
- カメラに装着されているレンズにCPUが入っていない
- ストロボがマニュアルズーム「M Zoom」で操作されています。「A Zoom」に切り替えてください。
- メインリフレクター⑩がバウンスされています通常位置に戻してください。
- ワイドパネルを元の位置に戻してください。

メインリフレクターのズーム照射角表示が液晶画面上で点滅します。

- 画像の周辺光量が落ちることを警告しています。レンズの焦点距離よりも広角側の照射角に合わせてください(35mmフォーマットに変更してください)。

TTLがセットできません。

- カメラとストロボの間でデータ通信が有効になっていないので、シャッターボタンを半押ししてください。
- カメラが、TTLをサポートしていません。

後幕シンクロ(REAR)がストロボで起動しません。

- カメラとストロボの間でデータ通信が有効になっていないので、シャッターボタンを半押ししてください。
- 後幕シンクロをサポートしているカメラでのみ、本機能をご使用できます。
- ストロボがハイスピードシンクロ(FPまたはHSS)にセットされています。HSSを解除してください。

手動TTL調光補正の設定が有効になりません。

- カメラが、ストロボの手動TTL調光補正をサポートしていません。

ストロボ同調スピードに自動的に切り替わりません。

- カメラが、レンズシャッターなので、切り替わる必要がない。
- カメラが、ハイスピードシンクロ(FPまたはHSS)で操作されています(カメラ設定)。この場合、ストロボ同調スピードに切り替わりません。
- カメラが、ストロボ同調スピードよりも遅いシャッタースピードに設定されています。カメラのモードによりませんが、ストロボ同調スピードへは切り替わりません。(カメラの取扱説明書をご覧ください)。

撮影画像の下に影が出ます。

- ストロボとレンズの位置関係のずれ(パララックス)によって、クローズアップ撮影などで、焦点距離にもよりますが、画像の下に端に影が出やすくなります。これを緩和するために、メインリフレクターを下方向に傾けたり、リフレクターの前にワイドパネルをかぶせたりします。

撮影画像が暗すぎます。

- 被写体がストロボの発光距離範囲より遠くにあります。**【注】**:バウンス発光を行うと発光距離が短くなります。
- 被写体が非常に明るくて反射率の高い場所にあり、カメラの測光システムや、ストロボが誤認識をします。プラスの調光補正を行ってください。

撮影画像が明るすぎます。

- 近接撮影では、シャッタースピードがストロボ同調スピードよりも早い場合、露出オーバーになります。被写体との最短撮影距離は、液晶画面の最大発光距離の少なくとも10%となります。

テクニカルデータ

最大ガイドナンバー(ISO100/21°、照射角105mm):	50
発光モード:	TTL調光、マニュアル(M)、ハイスピードシンクロ(HSS/FP)
発光レベル手動設定:	1/1~1/128、1ステップごとに設定 1/1~1/32 (HSS)
閃光時間:	表2をご参照ください。
センサー受光角:	約25°
色温度:	約5,600K
ISO感度設定:	ISO6~6400
同調方式:	低電圧式
発光回数(フル発光の場合):	約90回(ニッカド電池600mAh) 約210回(高容量アルカリ乾電池) 約330回(ニッケル水素電池2100mAh) 約460回(リチウム電池)
リサイクルタイム(フル発光時):	約3.5秒
照射角:	メインリフレクター: 24mm以上(35mmフォーマット) ワイドパネル付メインリフレクター: 12mm以上(35mmフォーマット)
メインリフレクターのパウンス角度とロックポジション:	上方向: -7° 45° 60° 75° 90° 反時計回り: 30° 60° 90° 120° 150° 180° 時計回り: 30° 60° 90° 120°
寸法(WxHxD):	71x137x99mm
質量:	約345g(電池除く)
本体および付属品:	内蔵ワイドパネル付ストロボ本体、取扱説明書

製品の仕様は予告なく変更する場合がございます。

オプションアクセサリ

 他社のアクセサリ使用によって、ストロボに不具合や破損が報じた場合は、当社は一切責任を持ちません。

●メカバウンス [58-90]

(商品番号: 4003915002875)

簡単な方法で照明をソフトにするためのディフューザー。写真に驚くほどソフトな外観を与え、肌のトーンも自然な感じに上げます。光のロスにより、最大発光距離は減少します。

●バウンスディフューザー [58-23]

(商品番号: 4003915002905)

強い影を反射光により緩和します。

●ストロボスタンド S60

(商品番号: 4003915002974)

スレーブモード時に使用するマウンティングフット。

電池の廃棄について

使い切った電池は、一般ごみとして廃棄しないでください。

国によって定められた収集箇所に返却してください。

完全に放電した電池のみ返却してください。

一般的に、電池が完全に放電するのは、以下のような場合です。

◎電源をオフできる機器や、電池が消耗したことを表示できる機器

◎長期間使用して、正常に機能しなくなった場合

廃棄するときは電池がショートしないように、電池の両極を絶縁して下さい。

表1: 最大発光時のガイドナンバー

ISO感度	ズーム照射角							
	12	24	28	35	50	70	85	105
6/9°	4.6	5.9	6.3	7.1	9.1	9.8	11	12
8/10°	5.2	6.8	7.3	8.2	10	10	12	14
10/11°	5.8	7.6	8.1	9.2	11	12	14	15
12/12°	6.6	8.3	8.9	10	12	13	15	17
16/13°	7.4	10	10	12	14	15	17	20
20/14°	8.3	11	11	13	16	17	20	22
25/15°	9.3	12	13	14	18	19	22	25
32/16°	10	14	15	16	20	21	25	28
40/17°	11	15	16	18	22	24	28	31
50/18°	13	17	18	20	25	27	31	35
64/19°	14	19	21	23	28	31	35	39
80/20°	16	21	23	26	32	34	40	44
100/21°	18	24	26	29	36	39	45	50
125/22°	20	27	29	32	40	44	50	56
160/23°	23	30	32	37	45	49	56	63
200/24°	26	34	36	41	51	55	63	71
250/25°	29	38	41	46	57	62	71	80
320/26°	33	43	46	52	64	69	80	89
400/27°	41	48	51	58	72	78	90	100
500/28°	47	54	57	65	80	87	101	112
650/29°	52	61	65	74	91	98	113	127
800/30°	59	68	73	82	102	110	127	142
1000/31°	66	76	81	92	115	124	143	160
1250/32°	74	85	91	102	129	139	160	179
1600/33°	82	96	103	116	145	156	180	200
2000/34°	92	107	115	130	163	175	202	224
2500/35°	102	120	128	145	183	197	226	254
3200/36°	116	136	145	164	204	220	254	284
4000/37°	130	152	162	183	230	248	286	320
5000/38°	145	170	181	205	258	278	320	358
6400/39°	164	192	205	232	290	312	360	400

表2: 発光量設定時の閃光時間

発光量	閃光時間	ガイドナンバー (ISO100, 照射角50mm)	ガイドナンバー (ISO100, 照射角105mm)
P 1/1	1/125	36	50
P 1/2	1/900	25	35
P 1/4	1/2000	18	25
P 1/8	1/4000	12	17
P 1/16	1/6000	9,1	12
P 1/32	1/10000	6,4	8,9
P 1/64	1/15000	4,5	6,3
P 1/128	1/25000	3,2	4,4

表3: 電池タイプ別のリサイクルタイムと発光回数

電池タイプ	リサイクルタイム		発光回数
	M	TTL	
アルカリ乾電池	3.5s	0,1~3.5s	210~4000
ニッケル水素電池 2100mAh	3.5s	0,1~3.5s	330~4000
ニッカド電池	3.5s	0,1~3.5s	90~1500
リチウム電池	3.5s	0,1~3.5s	460~8000

表4: HSSモード時の最大ガイドナンバー

	ズーム照射角							
	12	24	28	35	50	70	85	105
HSS ハイスピードシンクロ	6.6	10	11	13	15	17	20	22

ストロボと付属品を確認する

ご使用になる前に、ストロボと付属品がそろっていることを確認してください。

●50AF-1 digital

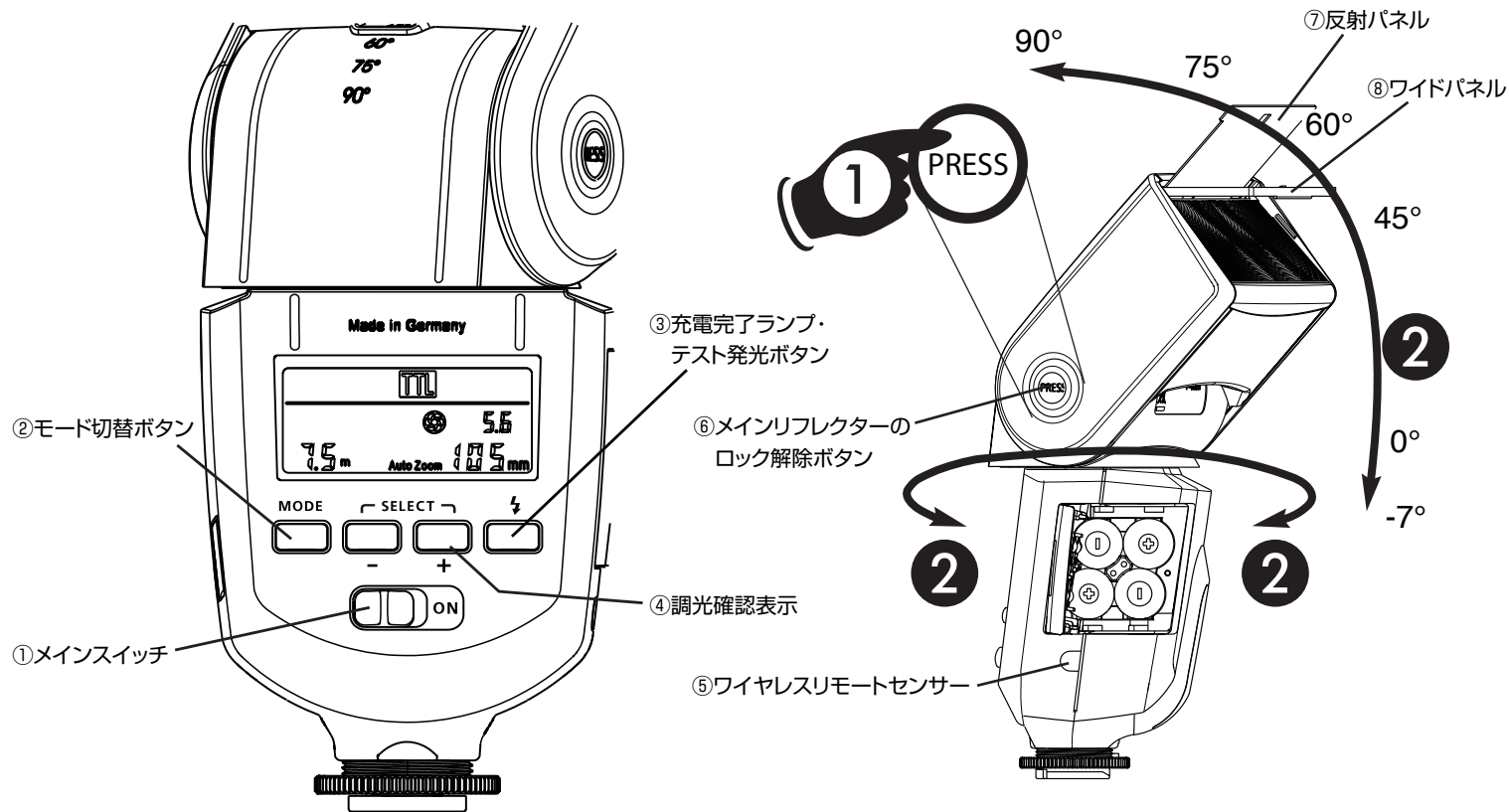
本体

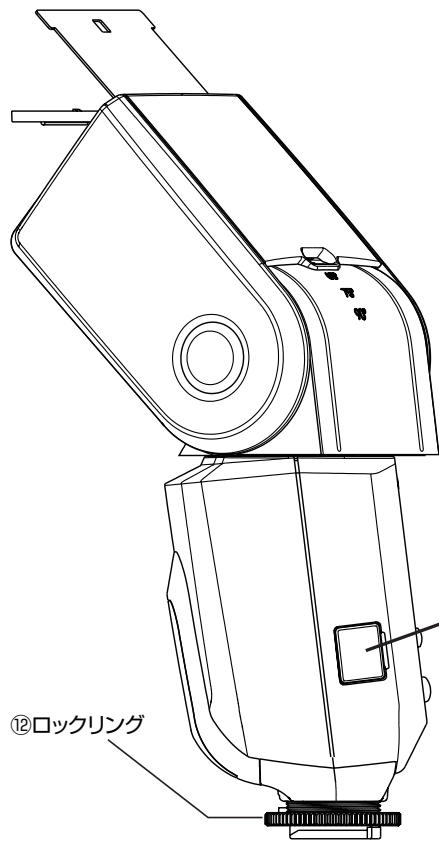


●取扱説明書



各部の名称



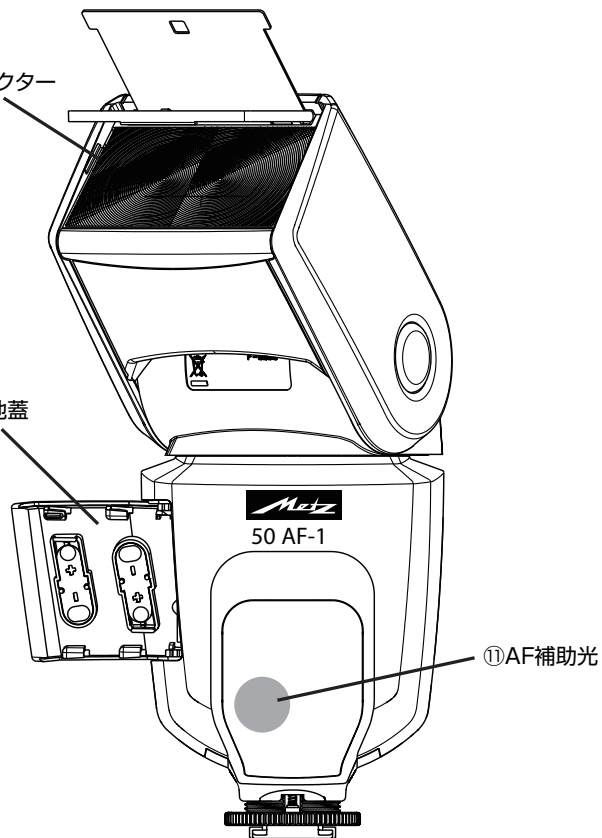


⑫ロックリング

⑬ファームウェア
アップデート端子

⑩メインリフレクター

⑨電池蓋



⑪AF補助光

輸入発売元：株式会社 **ケンコー**

ケンコーホームページ <http://www.kenko-tokina.co.jp/>

本社 〒161-8570 東京都新宿区西落合3-9-19

■広域販売部 ☎03(5982)1068(代) ■東京営業所 ☎03(5982)1060(代) ■光機営業部 ☎03(5982)2161(代)

大阪営業所 〒540-0005 大阪市中央区上町1-2-13

■大阪販売課 ☎06(6767)2652(代) ■大阪営業所 ☎06(6767)2640(代) ■大阪光機課 ☎06(6767)2648(代)

名古屋出張所 〒460-0008

名古屋市中区栄1-15-6(サカエミヤシタビル1F)

☎052(232)3331(代)

札幌出張所 〒060-0042

札幌市中央区大通西15丁目1-11(北日ビル第2大通405号)

☎011(613)2176(代)

仙台出張所 〒980-0011

仙台市青葉区上杉3-3-21(上杉NSビル2F)

☎022(211)0180(代)

福岡出張所 〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-12-3(玉井親和ビル1-H)

☎092(476)5071(代)